

上総十箇寺門石供養碑に見る 布教僧

中 村 孝 也

本稿では上総日什門流の、十箇寺の本末寺の「門石供養碑」を手掛りにして、二百九十箇寺、合計「二一八四」の大小の石碑を確認、宮谷檀林能化を中心として、報告する次第である。紙幅の關係にて他の事蹟は略す、

(1)速現日胤 京妙満寺、本国寺歴、享保八年正月十三日、八十一歳化、延宝頃より布教に従事し、宝永五年（一七〇八）九月十八日、東金西福寺に、本堂再興「法華百講」成就の碑を建立している。

(2)真珠日研 京妙満寺、本国寺歴、享保十一年五月五日化、五十八歳、享保年中、宮谷本国寺本堂前石段出来、五十講勤之（本国寺歴代帳）。

(3)顕性日照 京妙満寺、本国寺歴、延享四年二月十三日化、上総北幸谷生、享保十六年（一七三一）十月十三日、真亀浄泰寺に宗祖四百五十遠忌「法華百講」成就の碑を建立。

(4)静進日暹 京妙満寺、本国寺歴、寛延四年十月二日、七十八歳化、享保六年（一七二二）九月十五日、東金本漸寺に、先師発願万人講の爲「法華百講」成就の碑を建立。

(5)明照日眼 京妙満寺、本国寺歴、享保十三年二月二十三日、五十七歳化、上総福俵、栗原氏生、享保八年（一七二二）九月十八

日、東金西福寺方丈再興「法華百講」成就の碑を建立。

(6)事念日量 京妙満寺、本国寺歴、寛延三年十月二十七日化、豆州大土肥生、寛保元年（一七四一）九月十八日、東金西福寺本尊再興「法華百講」成就の碑を建立。

(7)源性日覺 真亀浄泰寺、本国寺、福俵生、元文六年（一七四一）二月二十八日、真亀浄泰寺に、開山日什三百五十遠忌「法華百講」成就の碑を建立、天明元年十二月十九日、八十五歳化（宝暦五年九月十九日説有り）。

(8)本寿日解 関本法寺、本国寺歴、安永五年（一七七六）八月、宮谷本堂再興「百座説法」成就す。寂年不詳。

(9)聽安日治 京妙満寺、本国寺歴、寛政九年十月十五日、七十二歳化、天明三年（一七八三）八月、東金西福寺に「法華五十講」を修す。上総求名生。

(10)寿全日完 京妙満寺、台方妙福寺歴、享保五年（一七二〇）九月十二日、台方妙福寺に「百講成弁」の碑を建立す。東金北村氏。

(11)円常日証 生実本満寺、本国寺歴、弘化四年八月二十一日化、天保三年（一八三二）四月朔日より同四日迄、日蓮五百五十遠忌正當を記念し「御経説法」成就す。

(12)照性日悌 京妙満寺、土氣善勝寺歴、明治二十六年二月六日寂、善勝寺の碑銘に「本門正宗百座」と銘記有り。

以上は「京妙満寺並、宮谷能化職」を歴任された布教僧であるが、次に其他の布教僧を挙げれば

(1)遠沾日詠 国府関如意輪寺歴、正徳三年八月十二日化、「両度百講執行、本堂成就、半鐘鑄造」。

(2)春泰日演 板倉法行寺歴、「転妙法輪五十席」享保十二年五月。

(3) 日元 会津妙法寺歴、享保十四年二月十五日、八十歳化、墓碑銘に「説法四十八年、一万座」とあり、上総飯尾氏生、享保二年三月上萱「法流山大講堂喚鐘」成就に、教化勸進主として活躍す。

(4) 速身日広 中野本城寺、太田万光寺歴、享保十四年(一七二九)

六月「二十八品百十二座説法」成就す(中野本城寺供養碑) 同年二十八品百十二座常聴衆之功授与本尊(太田二又不動堂講中本尊有り)

(5) 自妙日国 松本松寺、延享年中寂、享保十五年十月十三日「奉修行法華転法輪五十余日、奉口唱玄号一万部、六道銭志一千十五人、演説御書判志施主願望成弁所」の碑を、本松寺に建立す。

(6) 守玄日晴 姉崎妙経寺歴、元文二年十一月十九日化、妙経寺に「妙経演説百座」の碑を、享保十六年十月十三日に建立す。

(7) 寛考日芳 和泉東光寺、浜野本行寺歴、安永七年九月十日化、安永三年(一七七四)九月日の供養碑に「演説法輪一千七十座」とあり(和泉東光寺門石)、本行寺墓碑には「転法輪二千余座」とあり。

(8) 勤行日秀 勢田清竜寺歴、安永七年(一七七八)二月、同寺に「宗祖報恩演説五百座」の碑を建立す。

(9) 一要日通 高田常真寺、砂本源寺歴、安永八年十二月二十二日化、明和七年(一七七〇)四月、説法二千座供養す(同本尊付記)。

(10) 円善日正 国府関如意輪寺歴、天明七年(一七八七)同寺庫裡造立五十講を修す。

(11) 光耀日付 下野本泰寺歴、文政四年(一八二二)十二月、播州姫路妙立寺入院、十日百座檀中施入を以て諸尊御更衣(同寺過去帳)。

上総十箇寺門石供養碑に見る布教僧(中 村)

(12) 遠妙日利 佐倉経胤寺、高津戸本林寺歴、寛政五年(一七九九)二月十三日「奉講演説法一千座」修行す。

(13) 智善日高 萱野正法寺歴「石坂勸化五十講」を修す(享保年中歟)。

(14) 日選 牛込久成寺歴、常楽寺供養碑に「奉講演弘通説法二千座成就」とある。

(15) 永昌日鑑 京寂光寺歴、明治二年(一八六九)十二月八日化、六十四歳、「開口則不離權実本迹法義、説法一万余座四十年間、終始不違」とその伝に記さる。

(16) 正応日有 大木戸善徳寺歴、宝暦元年秋名主小高治兵衛、須藤七右衛門「法華三十講」に助力す(同寺過去帳)。

さて上総日什門流十箇寺並に、宮谷檀林能化職ともなれば、何らかの説法布教は「寺法寺役」を基になされていた事は、十箇寺に属する、土気善勝寺日廊の延宝八年(一六八〇)八月十四日、寺社奉所所書上に「寺法寺役之儀者、二月下旬、門徒之開基報恩会、二季之彼岸会、五月十二日、宗祖御難会、神無月中旬、宗祖之謝恩会、十一月十一日、宗祖之御難会、各従於速夜至千正当、真説法華同日中妙経講説執行仕、以上一歳九箇度法事相動来候事」とあり、善哉日字写本の宝暦の『宮谷雜記』に「本国寺常説法」の規制、並に「宮谷歴譜」の内に、玄講七十一世、文講六十七世の照智日利(明和五年六月七日化)の項に「己ノ四月二十三、宗祖大士不易説法ノ始」(宝暦十一年歟)とあるよりして、その内容は「法華経並御書」が主体となっていた事が知られるが、その具体的内容が不明確であり、日什門流独自の布教資料僅少の現在、その発見を切に望む次第である。

(立正大大学日蓮教学研究員)